

本月十八日用場主任會意見左ノ通りニ有之候條
此段及御通知候也

出席人員

金田坑	内堀次平	豐國坑	梅崎忠吉
峯田坑	白川龍吉	探炭坑	村上幸次郎
目尾坑	安武覺	高尾坑	伊藤氏
木田坑		伊崎須坑	
新井坑	許斐國松		

一體運賃ノ件

右ハ七月十一日意見ノ通り當時實行政務候
運賃表則シ方相成度事

一體運賃小炭坑増拂ノ爲メ影響ヲ來スニ依リ
組合役員ハ時々小坑へ出張定約船及運賃等取
締行届候様致度候事

一 渡砂第五區ヨリ以下充分行届候様致度事

廿七年九月十七日臨時總會決議

出席員

日鏡坑

城野塚厩

大辻坑

稻垣徹之進

藤野坑

安達仁造

吉田坑主島津孫六代理

舟津治郎兵衛

探炭會社

上井甚七
高雄坑主代理

安川敬一郎

大ノ浦坑

關田覺助

本洞坑々主許地蔵介代理

山本周太郎

餘田坑

島村茂徳

新入坑

松田武一郎

忠隈坑

久保喜久三

間屋組合

久保太郎

一稻垣總長ハ本年四月ノ總會ニ於ケル決議ニ基
キ本月限り辭任ニ付安達仁造氏來ル十月一日

ヨリ總長職ニ就任之事

一當組合事務多端ニ付專任總長ヲ置キ月俸五拾
圓ヨリ百圓迄ヲ給スルコト

一但常議員會ニテ適當ノ人ヲ推撰ノ上定ムルヲ

一月十三日ノ三縣石炭全業會ニ於テ議決セル
輸出炭取締ニ付上京委員ハ安川敬一郎君ニ委
托シ其上京費用ハ鐵業條例改正運動費剩餘金
ヲ以テ宛ツル事

一三縣石炭全業會委員ハ左ノ諸氏ヲ推撰スルヲ

徳弘爲章君 杉浦讓三君

安達仁造君 安川敬一郎君

城野琢磨君

以上正員

進藤八左衛門君 杉山松太郎君

貝島太助君 許斐鷹介君

山内國太郎君 筒井省吾君

山本貴三郎君 久貝知治市君

加藤仁八郎君 島津孫大君

以上補員

但正員出席出来セルトモハ補員出席スルモノ

トス 一本月開會ノ三縣石炭全業會ニ於テ支出金ノ不

足貳拾九圓〇五錢七厘ハ當組合ニテ負擔シ鐵

業條例改正運動費剩餘金ヨリ支出スルヲ

明治廿七年九月十八日

筑豊鐵業組合事務所

發第四七三号

廿七年十月十四日臨時總會決議

田川探興坑	金山坑	新西川坑	合志坑	御德坑	日鏡坑	醜田坑	忠親坑	勝野坑
上井甚七	山縣宗一	井上友次郎	田口敬文	堀三太郎	城野孫磨	島村茂穂	杉浦讓三	安達仁造



第百六十七号

拜啓陳ハ上京委員安川敬一郎君ヨリ輪
出炭ニ對スル其結ノ意見詳十日通信有
之候右ハ目下ノ重大問題ニ付御協議申
上度來ル十四日正午十二時當事蔭席ニ
於テ臨時總會開會候間御來會被下度此
段及御通知候也

十月十一日

若松造幣鑛業組合事務所

京野坑	吉野三郎
伊勢谷坑	川崎弘
第一大發坑	矢野三郎
吉田坑	龜崎嘉信
山田坑	西山兵藏
金剛坑	加藤助藏
大北坑	小野孫六
大ノ浦第一坑	高梨東太
貳坑瑞徳坑	松本勇吉
赤池大坑	豐島四郎
進藤入左衛門代	久保太郎
間屋組合	

一事務所新築費ハ兼テ徴收セシ金額ニテハ新築ノ設計ニ對シ不足ニ付本月十日大日ヨリ十二月十五日迄二ヶ月間送炭壹万斤ニ付金拾錢ヲ課シ徴收スルヲ

但右二ヶ月間送炭四億万ト見積リ概算四千圓トシ兼テ徴收セシ金四千圓ヲ合セ計八千圓ノ概算ナリ

一輸出入取締申合セ規約ハ近日安川上京委員歸縣ノ上臨時取締委員會ヲ開キ其繼續スルカ否ヤナ決議スルヲ

一三縣石炭全業會ハ安川上京委員歸縣ノ上定ム

九州炭礦者團體組織會

未

ル
7

明治廿七年十月十五日

筑豊礦業組合事務所

殿



注意

第二回三縣石炭同業委員會ハ來ル十月廿日
福岡博多ニ於テ開會ス

三縣石炭同業會

九州炭鑛業ノ團體成ル

九月十三日午前九時ヨリ長崎縣同十時ヨリ
縣同十一時ヨリ佐賀縣ノ各出席員ニ對シ前田正
名君ハ其旅館ニ於テ順次對話質問セラルタリ
同日午後ヨリ三縣出席員總テ東公園皆松館ニ會
ス前田正名君ハ協議ニ先テ談話セラル熱血淋漓
會業ノ盛衰極ル其談話ノ要點ヲ摘記スレハ左ノ
如シ

前田正名君談話要件

一、本日正名カ談話ハ別ニ何等妙技奇策アルニア
ラズ

二、石炭事業ノ容易ナラサルハ勿論ナリ其容易ナ
ラザルモノヲ容易ナラシムルハ一ニ諸君ノ働
如何ニ在リ又本來出來得ヘキモノナリ之ヲ出
來セシムルハ則石炭業ノ利益ナリ
三、他ノ事業ト異リ石炭ノ病症ハ直ニ配劑切斷等
ノ治療ヲ施ス譯ニ至ラス故ニ能ク病症ヲ判定
シテ先ツ攝養ヲ守ラセ然ル後配劑ノ方法ヲ立
ツヘキモノナリ此藥劑ハ協合ニ依リ政府或ハ
議會ニ對シ建議等ナキマルヘカラズ
四、今若シ假リニ九州炭坑ヲ諸君ノ中一人ノ所有
物ニシテ從來ノ如ク事業ヲ營マセ置クヲ得ル

カ必ス吾物トシテ真心ニ問ハ、先シ一家ノ經
濟ハ可ナリニ立ツトスルモ天地ニ對シ國家ニ
對シ又國民ノ義務トシテ今日ノ如ク差置クヘ
カラズト答フルナラン
五、物ヲ成スニハ自ラ信スルコト薄カレハ決シテ
人ハ信スヘキモノニアラズ今日朝野ノ人共ニ
多クハ六ヶ敷ナ六ヶ敷トシ難事ヲ難事トス是
國家ノ衰頹ヲ成スノ原因ナリ
六、此儘ニシテ置クヘキカ否ナ不充分ナカラモ先
ツ十ノモノナ五ツ丈ケ爲シ置キ殘ル五ツハ順
々ト整ハセ五年ノ後完全ナラシムルノ方針ナ

取ルコソ今日石炭事業ノ得策ナリト思フ最初
ヨリ完全ニ組織シテ働キ延焼開劣ナルハ却テ
不利益ナリ

七石炭事業ノ利益ヲ計ルニハ資本ヲ要ス其資本
ハ金錢ニアラズ諸君ノ精神ト忍耐力ト互ニ譲
リ合或ハ一時不便不利ヲ堪ヘ忍フ是レ資本ナ
リ云々

右ニ引續キ尙同君ハ左ノ要項ニ付演説セラル

前田君演説ノ要項

一九州炭坑業ニ付尤モ重大ナル事件ヲ明治廿七
年ニ至リテ協議會ヲ開ク如キハ實ニ恥ツヘキ

コトニテ三十有余年間後レタル代リニ非常ノ
利益心ヲ起シテ奮發セサルヘカラスルコト

一永遠ノ利益ヲ計ルニハ一個人一地方ノ目今暫
時ノ事情ヲ打破セサルヘカラスルコト

一一個人一地方ノ安全ニシテ永遠ノ利益ヲ得ル
ニハ中間ニ在ル情實并ニ不利ヲ爲スモノハ斷
然之ヲ排除セサルヘカラスルコト

一小資本ヲ以テ大事業ヲナスヨリ不利ナルモノ
ナレ然レモ小資本ナリテ方法ノ宜キヲ得レハ
大資本ニ相當スルコトヲ得ヘン

一今日ノ石炭業多クハ買ハル力ナクシテ買ハレル

モノナシハ之ヲ賣ル力ニナスヲ最モ必要ナル
一 資本ハ賣方組織ノ方法宜キニ依リ其信用ヲ得
テ初メ出來得ルモノナルヲ
一 海外派出員ハ今日ニ在リテハ觀察或ハ調査等
ヲ專一トスルニアラス注文取リニ派遣スルノ
精神ナラザルヘカラサルヲ
一 海外派出員ハ第一ニ其名稱ヲ得ヘキコト 第二
日本ニ於テ賣ル力ヲ付タヘザリ
一 先ツ長崎縣佐賀縣福岡縣ニ事情ノ許ス限リノ
例條ハ連絡シテ合併セサルヘカラサルヲ

一 假令三縣合併スルモ各獨立シテ其縣下ヲ維持
スルノ力ナケレハ其功ナカルヘキヲ
一 炭業ヲ三級ニ分ツ而シテ此三級ハ假令事情ヲ
異ニシ利害ヲ同フモヤル点アリトスルモ國家
經濟ノ爲メ義務トシテ互ニ補助シテ相讓ルヘキ
終ニニ臨ミ一言シテ曰ク廿有余年間國家ノ方針
ハ何等ノ点ニ取リタルカ總テノ營業者ハ果シテ
之ニ伴ヒ之ニ相當スルコトヲ盡シ居ルカ則此圖
ニ揭タル如ク石炭其他ノ輸出上外國ト見ルヘキ
所ハ或ハ門司若松或ハ長崎唐津或ハ神戸横濱等

ニアラスヤ概數何シ譬ヘシ云々(此時海外貿易其他ノ狀況ニ關スル圖解ヲ簡明ニ説示セラル)

右終リテ団体ヲ組織スルカ否カニ付協議ヲ遂ケ
フンダヤ旨ヲ會員ニ告ケラル茲ニ於テ一同關係
協議會ヲ開ク団体ヲ組織スルノ必要ハ各員ノ口
ヲ突ラ進出シ僅ニ一時内外ノ間ニ於テ簡略ノ規
約條件ヲモ可決セリ規約左ノ如シ

三縣石炭企業會規約

第一條 本會ハ福岡佐賀長崎三縣下石炭企業者
ヲ以テ組織ス

第二條 本會ハ企業者互ニ氣賦ヲ通シ親睦ヲ旨

トシ石炭濫輸出濫賣并粗惡炭ノ混交ヲ制止シ
海外ニ於ケル石炭販賣市場ノ商權ヲ擴張振作
シ利ノ業ノ利便ヲ増進スルヲ目的トス

第三條 本會ハ一縣毎ニ委員五名ヲ設ケ三縣交
番ヲ以テ一年二回四月十月順次委員會ヲ開キ
第二條ニ關スルコトノ協議ヲナスモノトス

但シ必要アル場合ハ臨時會ヲ開クコトアル
可シ

第四條 本會ハ時宜ニヨリ本會ノ評決ヲ以テ意
見ヲ其筋ニ建議シ又ハ其筋ノ諮問ニ答申シ若
クハ他府縣企業者ニ交渉スルコトアル可シ

第五條 本會ノ評決ハ三縣通シテ之ヲ施行スル

モノトス

但意見ノ一致セサルモノハ此限ニアラス

第六條 第三條ニ定ムル會費ハ當番縣全業者ニ

於テ負担スルモノトス

但會員ノ旅費日當等ハ各縣通宜ノ支辨トス

一同ヨリ協議ノ結果ヲ前田正名君ニ申告セシニ
同君ハ是ヨリ本會議ヲ開キタレ一應諸君ノ意見
ヲ問フト遂ヘラレタリシニ滿場異議ナキヲ答ヘ
シニヨリ同君ハ自ラ議長トナリ直ニ本會議ヲ開
シ官テ告ケ國體ヲ組織シ及ヒ協議會ニ於テ評決

セシ規約ニ異議ナキヲ問フ滿場一致可決ス則
前田君ハ立テ大聲ニ九州炭坑業萬歲ヲ唱ヘ會員
一同之レニ和セリ同君ハ座ニ復シテ來十月ノ會
ニハ帝國議會ノ爲ニ遺憾ナガラ出席スルヲ得
ヌ又明年四月ノ會丈ハ二月上旬ニ繰上テラレタ
シ左スレハ出席出來得ルト相談セラレシニ異議
ナク右ニ定リタルヲ以テ満足ヲ表セラレ尋イテ
同君ハ一言シテ曰ク正名ハ三十有余年間實業ノ
爲ニ身ヲ犠牲ニ供シタル結果トシテ茶業會五
二會等既ニ成リ今亦此ノ實業會成ル誠ニ身ニ取
リテ贈シヤコト名譽ナルコト此上モナシ正名カ

今日ノ正名ニテリレハ多年我四千萬同胞ノ膏血
 ヲ出テタル費用ノ爲メニ外ナラサレハ余ハ此
 恩返トシテ尙一層實業ノ爲メニ盡シタキ考テレ
 ハ諸君遠慮ナク使役セラシメコトヲ望ム旨ヲ達
 ヘラレタリシカ一同感涙ヲ漏フシ肅然暫ラク聲
 ナカリシ散會セシハ午後五時頃
 今日午後六時ヨリ東公園一方亭ニ於テ前田正名
 君ヲ請シ懇親ノ宴ヲ張ル席定メテ會員總代安川
 敬一郎氏ヨリ前田君ノ厚意ニ對スル謝辭ヲ達ヘ
 前田君ハ挨拶ヲ兼テ將來ニ對スル注意ヲ慈カレ
 タリ

前田正名君ハ一小冊子ニ「九州三縣炭鐵事業有志
 總義ヲ以テ天地ニ誓フ」一章ヲ書シ自ラ署名花
 押且テ會員ラシテ各自署名調印セシメラシタリ
 各縣ヨリ出席員及隨席官吏ハ左ノ如シ
 長崎縣ノ分

東彼杵郡佐世保村	近
同郡松尾村	同
同郡崎村	同
同郡竹田村	同
北松浦郡中川村	同
同郡福嶋村	同
同郡英吉	同

佐賀縣ノ分

小 城 郡 南 堀 多 久 原 村 土 倉

同 郡 抽 賣ノ 原 炭 坑 主 夫

西松浦郡西山代村

司	那	松	松
	山	山	尾
	坑	坑	主
			寶

果樹原種芳

同
國千
間
本田
族
賴坊
主
澄

10

10

© 2000 Blackwell Science Ltd *Journal of Internal Medicine* 247: 399–406

同
郡
田ノ上炭坑主
川上炭坑主

杵嶋那賴母炭坑主

大串又左衛門

石井野吉

高古谷炭坑伊主好

同 郡 有 炭 坑 主 功

同 邪牟田邊炭坑主

佐賀縣屬柴田長谷川芳之助

ノ
子

三、地灾抗灾紀人

英吉

八

八

英吉

八

鞍手郡植木炭坑主渡邊壯兵衛
 同郡上大原炭坑主貝嶋代理
 同郡御徳炭坑主甚助
 連賀郡下矢大原炭坑主三郎
 田川郡探炭所事務長太郎
 粕屋郡仲原炭坑主好太郎
 同郡旅石炭坑主佐平
 穂波郡忠隠炭坑主喜久三
 鞍手郡野炭坑事務長

嘉摩郡安達仁三
 鞍手郡下城炭坑主真長直
 同郡西川炭坑主琢磨
 田川郡金田炭坑事務員之
 同郡豐岡炭坑主喜三郎
 同郡赤池炭坑主一郎
 粕屋郡植木炭坑主右衛門
 鞍手郡下城炭坑主鷹介

外二

福岡縣屬村 岡 益 章
同 平 井 金 次 郎
福岡鎮山監督署長
中村 清 彦
同署書記 崎 安 彦

拜啓 然ハ遠賀川管理事務所沈床工事ニ付假航路
取設ク費用ノ件堀川内山ノ岸堰下水受ニ付村方
請求之件西川渡砂ノ件植木川尻渡砂夫増員ノ件
及水運費ノ件等多ク緊急御協議ヲ要シ候ニ付本
月廿八日當直方殿町東屋方(郡役所前)ニ於テ水運部
分會相開キ度候條全日正午十二時揃ニテ御出席
相成度此段及御照會候也
廿七年十月廿五日

筑豊石炭礦業組合

直方支部

掘川鑄各塚苗代用水中
〔自四月十一日〕
更上便利ノ爲ノ村方協議ノ上借受候
ニ就テハ是迄手數料塚番人ニ相渡候
分ハ相廢レ破燭両組合古田派出所ニ
於テ一艘ニ付金參錢宛徴取可致尤モ
名義金村方へ相渡候金額相満候半へ
相止ノ可申

右揭示候事

明治廿七年四月

磯
鰯



町
組
合

拜啓 玆々水廻部分會ニテ堀川各里苗代用水中

(自四月十五日起至五月十五日止)借受候處ニ決議相成居候ニ付村方該特

相整候ニ就テハ是迄各里ニ手数料右番人ニ相渡

候事相止ノ古田組合派出所ニ於テ堂艘ニ付金參

錢宛取立候間各紳主ヘ普々御示諭相成度此段御

通知旁及御依頼候也

追々取立金員村方ヘ相渡候金額相満候半ハ微

収方相止ノ可申此段申添候

筑豐礦業組合

明治廿七年四月廿一日

直方

常陸安房郡下



拜啓去ル廿日佐賀長崎福岡阿三縣鑛業人大總親會
ハ東松園一方亭ニ開キ來會者五拾餘名ニテ非常
ノ盛會ニ有之佐賀縣鑛業人ヨリ意見書提出ニ相
成我々組合中一部有志者ノ意見ヲ陳述シ福岡解
護士小野藤太郎氏ヨリ鑛業條例改正ニ付意見
ノ陳述ヲ有之種々討議ノ末三縣石炭鑛業人團體
組織等ノ相談アリ且テ現行組合準則ハ制裁力薄
弱ナルヲ以テ其改正ヲ其爲ニ出願スルコトヲ可
有之候間右御協議ノ爲メ來ル廿七日臨時總
會當事務所ニ開會候條重大ノ件ニ付萬障御繰合
御來會被降度候也

明治廿七年四月廿二日 筑豊礦業組合事務所

殿

再白前文作賀縣廳衆人及我々一部有志者ノ意
見書ハ印刷出來次第御送付可申且右意見書ハ
何レモ確定シタルモノニ非ヌ御參考ノ材料迄
ニ供シ候也
三白長崎縣ハ都合ニ依リ今般ノ會ニハ欠席シ
タルモ前文三縣鑛業人關係組織ノ相議ニハ無
論贊成致居候

拜啓昨廿八日水運部分會ニ於テ左之通決議致候
條此段及御通知候也

明治廿七年十月廿九日

筑豊礦業組合直方支部

出席員

吉田 坑	船津次郎平	高雄 坑	伊藤傳右衛門
伊岐須 坑	全 人	目尾 坑	吉岡 親全
第一大隈 坑	仰木豊太郎	大辻 坑	豆田爲太郎
第二新干 坑	片田正見	劉入第三坑	江村嘉助
肥泰 坑	原田芳太郎	大ノ浦 坑	高桑東太

登

本詞坑 許史權平 採炭坑 上村幸太郎
京野坑 吾間要七 勝野坑 安達仁造

一瀬川山ノ鼻堰下水受村方請求之作

右ハ村方談判之通名義金トレテ山ノ鼻堰名義金
ノ半額ヲ交付スルハ但右金額ハ約定引受人瀬川
見ケ結人士師徳太郎ノ返納金ヲ以テ支出スル

料 目	本年度豫算高	仕拂高	差引殘高	要求額
浸砂大給	三、五三八、	一、九四七、	一、五九一、	四〇三、四二、
	五〇〇、	〇九七、	五九一、	四一、五三九、

本年度豫算。對シ千五百九拾壹圓四拾錢三厘殘
額アルモ年度末ニ至リ四百拾貳圓五拾三錢九厘
ノ不足ヲ生スルハ夏川浸砂ニ七百六拾五圓五拾
三錢九厘ヲ要レタル所以ナリ最モ本年度豫算ニ
一ヶ月參百五拾參圓夏川浸砂豫算ノ見込アリタ
ルニ依リ差引右ノ不足ヲ生スルニ付更ニ増額ヲ
乞フ

右請求之趣ニ決ス

料 目	本年度豫算高	仕拂高	差引殘高	要求額
砂瀝瀝	一五〇、〇〇〇、	一〇七、〇九七、	四二、九〇三、	七七〇九七、
取給大給	一五〇、〇〇〇、	一〇七、〇九七、	四二、九〇三、	七七〇九七、

本年度豫算ハ夏季廢止ノ見込ヲ以テ六ヶ月間ノ豫算ナリタルモ前項ノ理由ニ依リ取替上必要廢止スル能ハサルヲ以テ從來ノ儘繼續セントスレハ本年豫算ニ對シ殘額差引年度末ニ至リ金七拾七圓九錢七厘ノ不足ヲ生スルニ付更ニ増額ヲ乞フ

右全斷

料 目	要 求 額
臨時夜砂 夫給	〇二七五・〇〇〇

植木川尻四名及小竹其他沈床工事ニ要スル四名都合夫八名ヲ配置セサレハ到底十七區ニ對スル全効見ル能ハサルニ付十月後半期ヨリ來年三月迄ニ係ル費用金額凡ソ百七拾五圓ヲ要スルニ付更ニ増額ヲ乞フ

右全斷最モ充分節減ヲ加ヘ候事ハ勿論ニテ過剩アルカハ翌年度ニ繰越ス

料 目	要 求 額
ナノラ番 人給	〇三〇〇〇〇

本科目ハ本年十月一日水運部分會ニ於テ當十

價ヲ以テ豫算金額ニ付テハ

二月迄ナゾラ曜番人ヲ置クハ決議ナリタル
 右ニ關スル經費凡參拾圓支出ノ目的アラサ
 ルヲ以テ本年度豫算ニ對シ更ニ増額ヲ乞フ
 右請求之通ニ決ス

科目	沈床工事	費目	要求額
	○	○	〇・〇〇〇〇〇〇

本科目ニ係ル費用ハ本月一日水運部分會ニ於
 テ假航路ヲ要スル金額百圓ノ見込ヲ以テ決議
 ナリタルモ到底該金ノ支出ヲ以テ充分ノ目的
 ヲ達スル能ハス今歳百圓余ノ金額ヲ要スル見

込ニ付増額ヲ乞フ最モ本願金額ノ如キハ臨時
 費ニシテ本年度全体ノ豫算ノ餘裕ナキ場合ニ
 付更ニ増額ヲ乞フ
 右ハ參百圓以內ヲ以テ可成成績スルノ見込ナル
 モ其端ヘ運轉ノ上不足ヲ生スルハ臨氣工事ヲ
 止メス追テ費額ヲ徴收ノ事ニ決ス
 一堀川跡黒川打出ニ取替ノ件
 右該所ニ取替人ヲ置キ從來ノ請願巡査ヲ廢スル
 〇但シ其費用モ該巡査費ヲ以テ支辨スルヲ且
 〇見張所該費ノ内參拾圓以內ニ於テ新築スル

一 西川水運費ノ件

右ハ是迄波砂費ハ取除キアルモ時ニ波濤ヲ要
レ且ツ折半費ニ於テ船業者ハ一般同一ノ負擔
ヲ爲レ居ルモノニ付到底西川筋ヲ波砂セザル
ヲ得ザルニ付本川筋全様ノ水運費ヲ徴收スル

以上ノ決議ニ依リ收支豫算左ノ通決ス

收 入

金壹千六拾圓

金五拾圓

本川筋及西川十一月一日ヨリ來ル廿八
年三月末日迄五ヶ月間出度正費參千萬
斤ト見ケル壹萬斤ニ付金貳萬圓徴收
期間前全額壹萬斤ト見ケル壹萬斤ニ
付五厘宛徴收

合計金壹千百拾圓

支 出

金千九拾四圓六拾參錢六厘

内 譯

金四百拾貳圓五拾參錢九厘

金七拾七圓九錢七厘

金貳百七拾五圓

金參拾圓

金參百圓

金拾五圓參拾六錢四厘

夏川波砂費補充

荷額取經費補充

臨時波砂大給

ナノヲ番人給

沈床工事ニ付假航路費

豫 備

本日水運部分會ニ於テ左ノ件々決議致候間此段
及御通知候也

明治廿七年

筑豊礦業組合

十月一日

直方支部

出席員

庄司坑	杉浦謙三	伊岐須坑	伊藤傳石工門
金田坑	内堀次平	日徳坑	大野健
肥春坑	原田芳太郎	大隈坑	仰木豊太郎
第二新平坑	片田正見	大城坑	永井翁
大辻坑	松田慶次郎	高雄坑	伊藤建二

一 運賃川管理事務所沈床工事ニ付假航路費用ノ
件假レ拾九ケ畧ノ内直方字東老其二ケ所同感
田字淵尻三ケ所上野村市堀堂ケ所同茶園堂ケ
所鮎田浦堂ケ所梅山一ケ所
右假航路ハ是非設ケサルヲ得サルモノニ付
可成費用ヲ節レ百圓以内ヲ以テ取計フ事ニ
決ス
但レ其金額及左ノ堀番人給ハ江川堂ノ内ヨ
リ假支出レ置タリ
一 堀川筋ナシヲ堀番人ノ件
右ハ通船ノ爲メ必要ナル上ハ支部請求ノ通リ

二 名配置スルコト尤モ本年十二月迄一ケ月ニ付
拾圓乃至拾底圓ニテ雇入ノ一ヲ支部長ヘ任ス
コトニ決ス

一 江川渡津ノ件

右ハ渡津設計書既ニ出来レ居ルモ此際運渡ノ
時季ノヒナラス堀川工事モ有之候ニ付尤ッ通
船渡津番タルモ場所ナル雖ノ江太閤水淺川橋
際及棧橋ノミ渡津又ハ修繕ヲ爲レ可成設計書
ニ據リ施工シ金參百圓以内ニテ取計フ事ニ決
ス
一 樽運賃取締ノ件

右ハ熟考ノ上迄延期スルヲ
 一 堀川修繕工事延期期ニ對シ郡長談示ノ件
 右ハ來ル十月廿日迄延期ヲ受クルモ到底工費
 ノ道相立タズ依テ今一應臨時總會ノ
 ア款願スル事ニ決ス
 一定約船取結員ノ件
 右ハ千川前廢レタルセ目下必要ノ請求アルモ
 付右取結行届カ^ルトモハ其請求ヲ容レ從前
 ノ通リ壹名ヲ置ク事ニ決ス
 右



明治廿七年十二月廿四日水運取締法制定ニ付留
 荷主任協議會ニ於テ左ノ通リ中合致候間此段及
 御通知候也
 明治廿七年十二月廿五日

直方支部

出 席 員

豐國坑	梅崎忠吉	赤池坑	延藤賢太郎
庄司坑	頭山次郎	京野坑	入江鐵吉
大辻坑	豆田爲太郎	第一大隈坑	仲木鉄二郎
古田坑	武藤平太郎	新入第三坑	江村嘉助
吉田坑	船津次郎平	新手機	白石作五郎

登

本洞坑 許斐國松 外厩坑 永田周次郎
 高江坑 田中龜吉 金田坑 島津梅太郎
 峯地坑 白川欄吉 金剛坑 渡邊寛二
 一 水運取締法第一條ノ手續
 右ハ臺帳ニ照合セタル勘ケナヤル假令ハ一
 月二日ノ定約ニテ照合シタルト十二月中ニ照
 合セシテ定約シ二重トナリタルハ日時ノ
 前後ニ係ラス照合シ臺帳ニ登記シタルモノナ
 其坑所ノ定約ト見認ムルヲ
 一 全第二條
 右ハ礦權同組合水運取締法ヲ遵奉スル云々ノ

文言ヲ契約書ニ明記スルヲ
 一 全第三章荷額制限ノヲ
 右ハ運炭上必要ノ事ナルモ時々ノ通知ハ必要
 ナヤト見認メ爾來ヘ取締員ニ於テ差滞ノ恐レ
 アリト見認メタル荷額ト水量トニ照シ臨機隨
 機又ハ上荷取ラレムル等適宜ノ措置ヲ爲スヲ
 依テ今後荷額制限表ハ配付セラルヲ
 一 揚炭ノ措置方
 右陸揚炭ハ水運部雜收入トモナル・トテ常議
 員會ニ向ヒ許決ヲ乞フヲ

發第五參四号

廿七年十二月十七日若松錄屋ニ於ケル
臨時總會決議

山	磯	磯	高	忠	勝	出
田	井	田	雄	限	野	席
坑	坑	坑	坑	坑	坑	具
松	杉	山	嶋	松	杉	安
岡	本	本	村	本	浦	達
嘉	太	茂	三	讓	仁	造
七	郎	郎	郎	郎	郎	郎



田川探炭	野村四郎助
吉田坑	舟津次郎平
黒川坑	金子長十
第一大隈坑	青木鉄二
赤池坑	鷹取甚橋
馬場山坑	田中元實
名前坑	平田作次郎
植木及ヒ大ノ浦坑	國田覺助
瑞穂坑	佐々木加太郎
西川坑主應代	須藤孫一郎

鑛山法案運動之件

- 一 鑛山法案ノ成立ヲ謀リ以テ現行鐵業條例ノ不完備ヲ矯正スルハ從來當組合目的ナルヲ以テ第八議會ニ再ヒ該案ヲ提出スルヲ
- 一 右運動方法等ハ兼テ選舉シタル鑛山法案再調査委員ニ托スルヲ
- 一 右運動費ハ當春徴收シタル該案運動費ノ剩餘金ヨリ支出スルヲ
- 一 鑛山法案ニ付修正ヲ要スル等ノ場合ハ右委員ニ托スルヲ
- 一 該委員ノ内瑞藤正吉君ノ後任ニ杉浦讓三君ヲ

撰舉レ且更ニ安川敬一郎君ヲ委員ニ撰舉セリ

組合事務所新築保存費ノ件

一 當組合事務所新築ハ當時計畫中ナルモ其保存費ヲ豫メ備ヘ置クハ必要ナルヲ以テ出役壹万斤ニ金五厘ヲ課レ保存費トシテ來廿八年一月ヨリ徴收スルヲ

但レ期限ヲ定メズ該費ニ相當ナル金額ノ元ツル迄徴收スルヲ

綿運賃取銷ノ件

一 綿運賃取銷ハ本月十日水運部分臨時總會ニ於テ決議シタルモノナリ通リ修正シ來ル廿五

日ヨリ實行スルヲ

一 運賃見込表ノ内

貳郎六拾錢

元案貳圓四拾五錢

補

木

參圓

元案貳圓九拾錢

古

田

五圓

元案四圓八拾四錢

上

三錢

一 木運取銷法ノ内第五條第二項ニ左ノ但書ヲ加

ス

但飯塚以西ハ貳割以下増拂ヲ爲ストヲ得ヘ

經費未納金處分ノ件

明治廿六年十一月以前ニ屬スル未納金左記之通
事務員ヘ種々督促スルモ千今納付無之整理上困
難ニ付其處分方左ノ通り決ス
一金七百貳圓四拾參錢壹厘

内

金貳百七圓八拾四錢六厘 上京費區劃
右ハ送炭高ニ由ラス鐵區ニ課レタルガ故ニ
遠隔ノ地ニ住スル鐵區處分者等ノ未納ハ組
合規約ニ由リ其送炭ヲ差押ユル等ノ處分ヲ
爲ス能ハス到底徴收ノ見込ナキヲ以テ欠額
ト爲ス

金六拾九圓六拾貳錢九厘

金壹圓八拾七錢四厘

金百六拾五圓六拾壹錢四厘

右ハ是非ハ徴收スルヲ

金貳圓六拾四錢九厘

金貳百五拾四圓八拾壹錢九厘

右ハ堀石部分會田川部分會ノ經費ナルヲ以

テ其處分方ハ該會ニ委スルヲ

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

堀石費

右終リテ忘年兼懇親ノ宴會ヲ開キ出席員一同各
歡シ盡レ午後十時頃散會セリ

明治廿七年十二月十八日

筑豐礦業組合事務所

各坑主御中



水廻取締法ノ儀ニ付本月十日水廻部分會ノ決議
ニ基テ全十一日常議員會ノ意見ヲ諮ヒ全十七日
臨時組合總會ニ於テ該取締法案按逐條審議左ノ
通り決定シ來々十二月廿五日ヨリ實施ノ義ニ決
議被條此段及御通知候也

追テ該取締法ハ此際充分組合支部ニ於テ開行
可爲致答ニ候條積荷主任等へ豫テ御訓諭相成
置度爲念申添候也

明治廿七年十二月十八日

總長安達仁造

水運取締法

第一章 船定約ニ關スル事

第一條 各規定船ハ船主ト契約前組合支部ニ
アル臺帳ニ照合シ二重定約ナキヲ認メ該臺帳
ニ登記ノ上締結スヘキモノトス
但シ学期ニ分割シテ定約スルモノモ本文ニ
據ルヘレ

第二條 定約船ニハ水運取締法ニ違背セサルコ
ト定約書ニ明記セシムル事

第三條 定約船ハ一定ノ取締規程ヲ渡スヘレ
但シ散船ニ係ル分ハ噸船兩組合ニ於テ相渡

スヘレ

第二章 船運賃ノ事

第四條 船運賃ハ物價ノ變動又ハ季節ニ依リ各
航路ノ上相定ノ船業組合ニ通知スルモノト
ス

但期川筋ハ該分部會ニ於テ中合ヲ爲スモノ
トス

第五條 船運賃ハ左ノ狀景ニ依リ一割以下ノ増
拂ヲ爲スコトヲ得ヘレ

但假令以西ハ東刺以下増拂ヲ爲スコトヲ得
一海外輸出等急速ノ積下レヲ要スルモ

第六條 前條ノ場合ニ於テハ日數又ハ數量ヲ限
リ組合支部ニ報告スヘシ組合支部ハ直ニ各
坑ヘ報知スルモノトス

第三章 荷額制限

第七條 運炭積量ハ荷足ヲ以テ制限ス

第八條 制限ニ超ヘタル積荷アル體ハ運炭ヲ爲
サレノサルモノトス

第九條 各運炭取扱所員及ヒ各派出所ニ於テ檢
査ヲ爲スヘレ

第四章 違約者處分

第十條 他坑ノ定約體ニ積荷ヲ爲サシメタルモ

ノハ違約トレテ該石炭陸上タル金五圓以下ヲ
差出サシム

第十一條 運賃ノ申合ニ背キ増拂ヲ爲セタルモ
ノハ増拂金ヲ組合ニ沒收シ違約トシテ該積下
レ運賃額ヲ差出サシム

第十二條 積荷制限ニ超ヘタル石炭ハ陸上クノ
上組合ニ差出サシム

第十三條 前三條ニ明記セザル條項ニ違背レタ
ル者ハ金壹圓以上貳圓以下ヲ差出サシムルヲ
アルヘレ

第五章 體組合ニ關スル事

第十四條 解組合ニハ此取締法ヲ通知シ樽主ニ
開スル取締法ヲ設ケルヘシ

第十五條 本法第二條第三條第五條第七條第八
條ノ各項目ハ前條ノ取締法ニ明記ヲ爲スヘキ

第五貳五号

當組合規約第四十三條左記之通更正之義其語へ出願致候
處本年十一月廿八日付ヲ以テ認可相成候條此段及御通知
候也

明治廿七月十二月十日

各坑主御中
筑豊鑛業組合事務所

第四十三條

本章ニ從ヒ義務ヲツクサ、ルモノハ其者ノ
送炭ナ一時預メ置キ水運ノ分ハ適宜ノ場處ニ陸揚ケレ
陸運ノ分ハ停車場内ニ留置キ其旨ヲ通知シタル上尙一
週内ニ其義務ヲツクサ、ルモノハ該送炭ヲ賣却シ其代
價ヲ以テ徴收金額ニ充テ尙ホ不足シタルトハ追徴セズ



拜啓今般水運取結法制定十二月廿五日
ヨリ施行方總長ヨリ達セラレ候ニ付テ
ハ右手續等諸事用場主任者へ御協議致
度候條萬障御都合ニ來ル廿四日正午十
二時迄ニ當支部へ御出頭方無漏御承達
相成度此段及御照會候也

筑豊礦業組合

明治廿七年十二月廿一日 直方支部

利
レ
タ
ル
カ
ハ
返
付
ス
ベ
レ
但
陸
揚
ケ
又
ハ
留
置
ニ
關
ス
ル
諸
入
費
及
損
害
ハ
該
送
炭
主
ノ
負
担
タ
ル
ヘ
レ

明治廿七年上半季

筑豊石炭鐵業組合収支決算報告書

明治廿七年自四月至九月取支決算報告書

一金壹萬參千八百拾參圓八拾五錢壹厘

請求書發付總高

一金壹萬千四百九拾五圓七拾六錢四厘

徵收金總高

一金貳千參百拾八圓八錢七厘

未徵收金總高

一金壹萬參千參百拾參圓七拾七錢七厘

收入金總高

內譯

金壹萬千四百九拾五圓七拾六錢四厘

課金徵取高

金六拾貳圓七拾貳錢六厘

前年度繰越現金高

金千七百五拾五圓貳拾八錢七厘

總金銀折合平兩及兌換金銀
一俟換金及入高

一金六千六百六拾八圓貳拾五錢

仕拂金總高

內譯

金四千九拾八圓參拾六錢九厘

仕拂精算高

金貳千五百六拾九圓八拾八錢壹厘

池用金貨却及銀換
金一俟換高

一金六千六百四拾五圓五拾貳錢七厘

差引現在金總高

備考

各項目収支決算明細書左ノ如ク

自明治七年
至全
年九月
収支決算明細書

通常費

課金請求ノ部

一金千參百參拾貳圓五拾錢貳厘

請求高

内譯

金百拾參圓八拾四錢四厘

前々季分

金貳百八拾七圓九拾五錢

前季分

金九百參拾圓七拾錢八厘

當季分

備考

前々季ハ廿六年十一月以前ニ屬スルモノ前季ハ

全年十二月ヨリ本年三月迄ニ屬スルモノ當季ハ
本年四月以降期ナ甘七年度ニ屬スルモノナリ以
下之レニ

徴収金ノ部

一金千九拾四圓五拾貳錢四厘

徴収高

内譯

金貳拾七圓四錢五厘

前々季分

金貳百參拾八圓貳拾錢六厘

前々季分

金八百貳拾九圓貳拾七錢參厘

當季分

差引未徴収金ノ部

一金貳百參拾七圓九拾七錢八厘

未徴収高

内譯

金八拾六圓七拾九錢●九厘

前々季分

金四拾九圓七拾四錢四厘

前々季分

金百壹圓四拾參錢五厘

當季分

収入金ノ部

一金千五百六拾壹圓七拾五錢參厘 收入高

内譯



金千九拾四圓五拾貳錢四厘

取入高

内

金貳拾七圓四錢五厘

前々季分

金貳百參拾八圓貳拾錢六厘

前季分

金八百貳拾九圓貳拾七錢參厘

當季分

金壹圓貳拾五錢

雜收入金

金拾圓四拾四錢七厘

廿六年度ヨリ繰越現金

金四百五拾五圓五拾參錢貳厘

今年度ニ於テ繰換持高

内譯

金百參拾圓

金貳百七拾六圓六拾五錢貳厘

金五圓

金四拾參圓八拾八錢

内

金拾參圓八拾八錢

金參拾圓

戸細明細積及繰越金
合ハ繰換ノ分
繰越金其差ハ仕典
金未取戻ノ分
一時預金全上
前年度ニ於テ假拂高

假拂精算済ノ分
假拂未精算ノ分

支出金ノ部

一金千五百貳拾六圓六錢壹厘

仕拂高

内

金八百五拾八圓拾錢參厘

精算高

內譯

金八百參拾五圓五拾七錢參厘

本部費

內

金參百參拾圓拾參錢六厘

役員給料

金參拾參圓貳錢

慰勞金

金五拾四圓

借家料

金四拾七圓五拾錢

郵便電信料

金百拾圓

旅費

金六拾七圓四拾錢壹厘

印刷及諸報告費

金貳拾九圓參錢四厘

備品費

金八拾壹圓參拾七錢貳厘

消耗品費

金七拾六圓貳拾壹錢

會議並交際費

金六錢

金貳拾錢

爲換手數料

金壹圓六拾四錢

兩換手數料

金四圓參拾錢

諸雜費

金七拾錢

修繕費

金貳拾貳圓五拾參錢

前季未決算ノ分精算高

內

金貳拾壹圓五拾四錢

本部費

小譯

金貳圓六拾五錢

旅費

金拾四圓八拾九錢

消耗品費

金四圓

印刷及諸報告費

金九拾九錢

吉田派出所費

小譯

金九拾九錢

郵便電信料

金拾八圓參拾錢六厘

前季ハ後季ノ後收入金口
一時返用ノ分但知爲

金六百四拾九圓六拾五錢貳厘

繰換拂高

内譯

金四百拾壹圓六拾五錢貳厘

前季繰換未返戻高

内

金百參拾圓

金貳百七拾六圓六拾五錢貳厘

金五圓

石組細注用金銀器組合へ
前季ハ於ク一時繰換組合へ
前季ハ於ク一時繰換組合へ
ハ於ク一時繰換組合へ
ハ於ク一時繰換組合へ

全一時預金全上

金百圓

當季ハ於ク事務所借入金
金小額次ハ於ク事務所借入金

金百參拾八圓

便拂高

内

金參拾圓

金百八圓

前季ハ繰換金未納
前季ハ繰換金未納
前季ハ繰換金未納
前季ハ繰換金未納

差引現在金參拾五圓六拾九錢貳厘

江川渡津費

課金請求ノ部

一金千參百圓八拾錢五厘

内譯

金壹圓八拾七錢四厘

金千貳百九拾八圓九拾參錢壹厘

請求
高

前々季分

當季分

徴収金ノ部

一金千百七拾圓九錢

徴収
高

內譯
金千百七拾圓九錢
當季分

差引未徴収金ノ部
一金百參拾圓七拾壹錢五厘
米徴収高

內譯
金壹圓八拾七錢四厘
前々季分
金百貳拾八圓八拾四錢壹厘
當季分

取入金ノ部

金千百七拾圓九錢
收入高

內譯

金千百七拾圓九錢
當季分

支出金ノ部

一金參拾五圓貳錢六厘
仕拂高

內譯

金拾參圓八拾壹錢七厘
精算高

內

金七圓九拾貳錢
諸族費

金五圓八拾九錢七厘
雜費

金貳拾壹圓貳拾錢九厘

飯 拂 高

差引現在金千百參拾五圓六錢四厘

上 京 費

課金請求ノ部

一金貳千七百七圓四拾九錢九厘

請 求 高

內 譯

金貳百七圓八拾四錢六厘

前 季 分

金貳百七拾壹圓參拾壹錢八厘
金參拾六圓五拾貳錢八厘

金貳百七拾壹圓參拾壹錢八厘
金參拾六圓五拾貳錢八厘

金貳千四百九拾九圓六拾五錢參厘當

季 分

徵收金ノ部

一金貳千四百拾五圓六拾壹錢貳厘 徵 取 高

內譯

金貳千四百拾五圓六拾壹錢貳厘 當 季 分

差引來徵収金ノ部

一金貳百九拾壹圓八拾八錢七厘 未 徵 収 高

內譯

金貳百七圓八拾四錢六厘 前 季 分

金百七拾壹圓參拾壹錢八厘
金參拾六圓五拾貳錢八厘

金八拾四圓四錢壹厘 當 季 分

收入金ノ部

一金貳千四百拾五圓六拾壹錢貳厘 收 入 高

內譯

金貳千四百拾五圓六拾壹錢貳厘 當 季 分

支出金ノ部

一金千參百參拾八圓壹錢七厘 仕 拂 高

內譯

金貳百八拾八圓壹錢七厘 精 算 ノ 分

金九圓五拾九錢
 金六拾圓拾貳錢
 金六圓九拾壹錢
 金貳圓
 金壹圓九拾錢
 金貳百七圓四拾九錢七厘
 金千五拾圓
 差引現在金千七拾七圓五拾九錢五厘

旅費
 印刷費及諸報告費
 郵便電信料
 備品費
 爲換手數料
 諸雜費
 俵高
 通ヲ精算ノ分

但此等費及門印雜費ハ
 概算金別表仕簿ニ係ル分

事務所新築費

課金請求ノ部

一金參千八百參拾五圓八拾貳錢 請求 高

內譯

金參千八百參拾五圓八拾貳錢 當季 分

徴収金ノ部

一金貳千九百貳拾四圓拾參錢七厘 徴収 高

內譯

金貳千九百貳拾四圓拾參錢七厘 當季分

差引未徵收金ノ部

一金九百拾壹圓六拾八錢參厘 未徵收高

內譯

金九百拾壹圓六拾八錢參厘 當季分

取入金ノ部

一金貳千九百貳拾四圓拾參錢七厘 取入高

內譯

金貳千九百貳拾四圓拾參錢七厘 當季分

差引現在金貳千九百貳拾四圓拾參錢七厘

水運費

課金請求ノ部

一金參千四百六拾貳圓拾錢貳厘 請求 高

内譯

金半四百參拾貳圓九拾參錢七厘 前季 分

金貳千貳拾九圓拾六錢五厘 當季 分

徴収金ノ部

一金參千貳百六圓七拾貳錢五厘 徴収 高

內譯

金千參百九拾八圓六拾壹錢九厘

金千八百八圓拾錢六厘

富	前
季	季
分	分

差引未徵取金ノ部

一金貳百五拾五圓參拾七錢七厘

宋 張 叔 高

4

金參拾四圓參拾壹錢八厘

金貳百貳拾壹圓五錢九厘

富	前
季	季
分	分

取入金ノ部

一盒四千五百五圓貳拾參錢

內 譯

全參千貳百六圓七拾貳錢五厘

收入高

A4

金千參百九拾八圓六拾壹錢九厘

金千八百八圓拾錢六厘

富	前
季	季
分	分

金平園

營業組合は本年度沙費ニ對
スル總額費折半額ノ内取入ノ分

人、其の多くは、内職、小売、

金貳百九拾八圓五拾錢五厘

飯拂金鼠人ノ分

内

金七拾六圓九拾九錢參厘
金貳百貳拾壹圓五拾壹錢貳厘

假拂精算戻入ノ分
全未精算ノ分

支出金ノ部

一金參千四百八拾圓四拾七錢九厘

仕拂高

内

金貳千九百參拾八圓四拾參錢貳厘

精算高

内譯

金參百參拾七圓四錢貳厘

支部費

内

金百七拾五圓

支部長給料

金參拾九圓五拾四錢八厘

定約船取師人給

金貳拾圓

赤池船捌人給

金貳拾圓

借家料

金貳圓貳拾錢

會議費

金六圓貳拾八錢九厘

印刷及諸報告費

金拾六圓五拾四錢參厘

備品費

金九圓九拾八錢貳厘

消耗品費

金四拾圓貳拾九錢

旅費

金五圓八拾六錢

郵便電信料

金壹圓參拾參錢

飛脚費

金百六拾圓貳拾壹錢七厘

吉田派出所費

內

金百四圓

役員給料

金五圓

信家料

金參圓九拾貳錢五厘

備品費

金九圓七拾六錢貳厘

消耗品費

金貳拾六圓八錢

旅費

金九拾七錢

郵便電信料

金壹圓貳拾八錢

飛脚及人夫賃

金九圓貳拾錢

宿直貲料

金九拾圓七拾貳錢九厘

掃川派出所費

內

金六拾八圓拾六錢六厘

役員給料

金貳圓

宅地料

金四圓拾錢

備品費

金四圓六拾六錢參厘

消耗品費

金拾圓五拾八錢

旅費

金八拾錢

郵便電信料

金四圓拾貳錢

飛脚及人夫賃

金貳千貳百六拾九圓六拾錢九厘

渡沙費

內

金百九拾貳圓

監督費

小譯

金百五拾圓
金四拾貳圓

監督員給料
全手當

金百九拾九圓貳拾貳錢四厘
小譯

諸願還查費

金百六拾五圓七錢四厘

成規上納金

金參圓

西川巡迴慰勞金

金拾圓

中間借家料

金五圓九拾錢

出張宿泊料

金拾五圓貳拾五錢

諸雜費

金參百拾六圓參錢貳厘

運炭取締費

小譯

金七拾六圓壹錢八厘

直力運炭取締人給

金七圓

植木全上

金參拾五圓

堀川登船取締人給

金百六圓九錢七厘

荷船運炭取締人給

金六拾圓

壽命唐戸番手當

金拾貳圓五拾錢

堀川運炭取締人手當

金拾貳圓五拾錢

中間唐戸番取締人手當

金六圓九拾壹錢七厘

諸雜費

金千四百七拾五圓五拾九錢七厘
渡沙夫給

金貳拾九圓五拾壹錢

臨時渡沙夫給

金參拾壹圓

渡沙夫賞與金

金拾圓參拾參錢壹厘

瀨寄櫓費

金拾壹圓貳拾七錢五厘

機械費

金四圓六拾四錢

諸雜費

金八拾圓八拾參錢五厘

前季仕禮未決算高

內

金參拾圓八錢五厘

運炭取歸費

小譯

金拾圓八拾四錢

旅費

金七圓

堀川縣船取歸人給

金貳圓五拾錢

中間店戶番取歸人手當

金九圓七拾四錢五厘

諸雜費

金貳圓五拾錢

請願巡査費

小譯

金貳圓五拾錢

中間信家料

金四拾八圓貳拾五錢

渡沙賞與金

金四拾九圓八拾九錢八厘

前季の差ノ収收入金ヨリ一
時採用ノ外債計高

金四百九拾五圓八拾四錢九厘

仮拂 高

内

金貳百貳拾壹圓五拾壹錢貳厘

金貳百七拾四圓參拾參錢七厘

前季仮拂未精算ノ分
當季仮拂未精算ノ分

差引現在金千貳拾壹圓五錢壹厘

準備費

課金請求ノ部

一金參百人拾貳圓四拾四錢七厘

請求 高

内譯

金參百人拾貳圓四拾四錢七厘

當季 分

徴収金ノ部

一金參百參拾壹圓參拾五錢七厘

徴収 高

内譯

金參百參拾壹圓參拾五錢七厘

當季分

差引未徵収金ノ部

一金五拾壹圓九錢

未徵収高

内譯

金五拾壹圓九錢

當季分

収入金ノ部

一金參百參拾壹圓參拾五錢七厘

収入高

内譯

金參百參拾壹圓參拾五錢七厘

當季分

差引現在金參百參拾壹圓參拾五錢七厘

燭石費

課金請求ノ部

一金七拾圓九拾九錢四厘

内詳

金貳圓六拾四錢九厘

金拾參圓拾九錢

金五拾五圓拾五錢五厘

請求高

前々季分

前季分

當季分

徴収金ノ部

一金六拾五圓八錢九厘

徴収高

内譯

金拾貳圓六拾六錢四厘
金五拾貳圓四拾貳錢五厘

前季分
當季分

差引未徵収金ノ部

一金五圓九拾錢五厘

未徵収高

内譯

金貳圓六拾四錢九厘
金五拾貳錢六厘
金貳圓七拾參錢

前々季分
前季分
當季分

収入金ノ部

一金百圓八拾參錢壹厘

収入高

内譯

金六拾五圓八錢九厘

収入高

内

金拾貳圓六拾六錢四厘
金五拾貳圓四拾貳錢五厘

前季分
當季分

金參拾五圓七拾四錢貳厘

廿六年度現在金繰越高

支出金ノ部

一金四拾圓五拾九錢八厘

仕 拂 高

内 譯

金五圓四拾八錢

金參拾四圓四拾壹錢

金五拾八錢八厘

金拾貳錢

旅 會 印 郵
費 議 刷 便
電 信
料

差引現在金六拾四圓貳拾參錢參厘

田 川 費

課金請求ノ部

一金五百五拾六圓四錢壹厘

内 譯

金貳百八拾九圓拾八錢八厘

金七拾六圓參拾七錢九厘

金百九拾圓四拾七錢四厘

請 求 高

前々季分

前季分

當季分

徴収金ノ部

一金貳百八拾八圓貳拾參錢

徵取高

內譯

金參拾四圓參拾六錢九厘

前々季分

金七拾六圓貳拾八錢四厘

前々季分

金百七拾七圓五拾七錢七厘

當季分

差引未徵收金ノ部

一金貳百六拾七圓八拾壹錢壹厘

未徵取高

內譯

金貳百五拾四圓八拾壹錢九厘

前々季分

金九錢五厘

前季分

金拾貳圓八拾九錢七厘

當季分

取入金ノ部

一金參百四圓七拾六錢七厘

取入高

內譯

金貳百八拾八圓貳拾參錢

取入高

內

金參拾四圓參拾六錢九厘

前々季分

金七拾六圓貳拾八錢四厘

前季分

金百七拾七圓五拾七錢七厘

當季分

金拾六圓五拾參錢七厘

廿六年度現在金繰越高

支出金ノ部

一金貳百四拾四圓參拾六錢九厘

仕拂高

内譯

金貳百參拾四圓參拾六錢九厘

金拾圓

松尾銅三氏へ交付ノ分
假拂高

但田岡備後以金主數料

差引現在金六拾圓參拾九錢八厘

舊港口補助費

一金九百五拾七圓九拾壹錢五厘

内譯

金百六拾五圓六拾四錢壹厘

但本年四月后收支ナシ

三月度一日現在未収取高

金七百九拾貳圓貳拾七錢四厘

是ハ本年三月三十一日現在殘金コレヲ勤年度
決算ノ際一時水運費へ流用貸高ニ付追テ償却
ナルヘキ分

新港口補助費

一金參百貳圓拾錢四厘

是ハ本年三月三十一日差引現在殘金ニシテ前年
度決算ノ際通常費一時流用貸高ニ付追テ償却ナ
ルヘキ分

明治廿七年九月三十日現在資産負債ツ一表ニ示
ス左ノ如シ

負債ニ屬スル分		資産ニ屬スル分	
科	目	科	目
	金		金
	員 ●		員
新橋口補助金未返戻高	三〇一、一〇四	越前県米徴収高	二二七、九七八
稲石農租金未受付高	六六、二三八	江川渡運賃未徴収高	二二〇、七一五
田川農租金未交付高	三二八、二〇九	上京費未徴収高	二九、一八八七

新築費未徴収高	九一六八三
水運費未徴収高	二五五三七七
埠船費未徴収高	五一〇九〇
船石費未徴収高	五九〇五
御川費未徴収高	二六七八一
鹿港口補助費未徴収高	一六五六四一
貸付金未返戻高	四〇六六五二
繰換金未返戻高	一〇〇〇〇〇〇
一時物々金	五〇〇〇
水運費流川借入高	七九二七四

通費流川借入高	三〇二一〇四
假拂	高 二、〇一五〇五八
通常費借金有高	三五六九二
江戸横濱沙金有高	一、三五六六四
上京費借金有高	一、〇七七五九五
新築費正金有高	二、九二四一三七
水運費借金有高	一、〇二二〇五一
埠船費正金有高	三三三三七
船石費正金有高	六〇三三三
御川費正金有高	六〇三九八

日七

備考

本表資産高ハ壹万千八百人拾八圓貳拾五錢壹厘
 トアル内假綿金貳千拾五圓五錢八厘ハ進テ各
 項目ニ精算相成ヘヤモノニア純資産ニ非ラス依
 テ是レヲ扣除セハ全シノ資産高ハ九千八百七拾
 參圓拾九錢參厘トナル

總計	合 計	
	計	合
一八五八四七〇二	六九六四五二	二二五八四七〇二
一八五八四七〇二	二八八八一五	二二五八四七〇二
總計	計	合
二二五八四七〇二	二二五八四七〇二	二二五八四七〇二

